

新田を耕せ

ホセア書10章

あなたがたは自分のために正義をまき、いつくしみの実を刈り取り、あなたがたの新田を耕せ。今は主を求むべき時である。主は来て救いを雨のように、あなたがたに降りそそがれる。(12)

民の罪に対する神の裁きを語るホセアですが、そのただ中で突然神の恵みを語ります。主によつて捨てられようとしているイスラエルにも、回復の望みが残されているということです。これまでイスラエルのしてきたことは、罪の種をまき、不正と偽りの実を刈り取ることでした。そのような民に対して、「あなたがたの新田を耕せ」とホセアは命じます。悪しき実を結んだ木々の根を掘り起こし、固くなっている大地を耕して主の恵みを受け止められるように柔らかくせよということです。主はこのような頑なな民を見捨てることなく、「主は来て救いを雨のように、あなたがたに降りそそがれる」からです。主の慈しみと憐れみが残されている今こそ、心を変えて主を求めるように民に訴えます。「今は主を求むべき時である」と。主の恵みを求めることにおいて、「やがてそのうち」という態度はふさわしくありません。信仰は常に、今ここのように生きるかが焦点となります。使徒パウロも同じように語っています。「見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である」(第二コリント六2)。

わたしたちの信仰生活において、開墾されずに残っている恵みの領域がまだ多くあるのではないのでしょうか。主はわたしたちに語られます。「あなたがたの新田を耕せ」と。今こそ主を求めるときだからです。この恵みの時を先送りしてはなりません。